

せきぞうえんめいじ ぞう ぼさつ ぞう
57. 石造延命地蔵菩薩像

■ 指定日

平成2年12月12日

■ 種別

有形文化財 彫刻

■ 年代

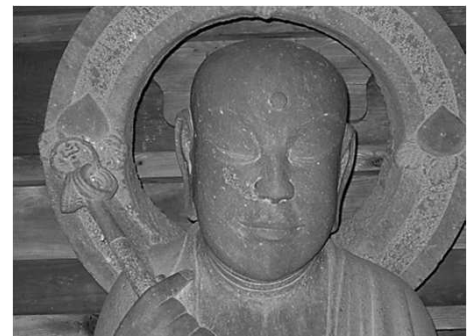
江戸時代

■ 所在地

朝来市和田山町宮

■ 所有者

円明寺



■ 内容

文政年間(1818～1830)頃の延命地蔵。

製作者である石工・守屋貞治は信州高遠の人で、名工として知られていた。貞治は信州上諏訪の臨済宗温泉寺の住職・願王和尚に師事し、和尚が同じく弟子であった円明寺の光隣和尚を訪ねてきていることから、その縁で貞治が造像にあたったものである。

大きな蓮台の上、円光背を放ちながら錫杖と宝珠を持つこの像は、但馬内の石造像のなかでも規模が大きくすぐれたものの一つである。なお、顔面には、右目下から鼻にかけて、斜めに走る傷がある。石自体のもつ内部組織の粗い部分が、浮き出たものであるが、不思議なことに、願主の光隣和尚にも同じところにシミがあったという。和尚は、傷を消そうと苦心している貞治を慰め「シミ取り地蔵」と名づけて供養したそうである。今でも、アザやシミを取り除いてくれるお地蔵様として、近隣の人々の信仰を集めている。